

馬興国先生を偲ぶ

秋 山 憲 治（アジア研究センター所長）

馬先生のご逝去に際し、哀悼の意を述べさせていただきます。

馬先生には、中国との国際交流のコーディネーターとして大変お世話になりました。先生は、中国で日本研究の北の神様として尊敬され慕われておりました。中国の日本研究者や日本研究の大学・研究機関に多くの人脈を持ち、中国の日本研究のネットワークを活用して神奈川大学と中国との国際交流にご尽力されました。

私は、馬先生と大連や瀋陽、上海、杭州など、国際交流の親善を深めるシンポジウムに数回ご一緒しました。特に、印象的な中国訪問は、二〇一二年九月、瀋陽の遼寧大学で行われた「日中国交正常化四〇周年回顧と展望 国際シンポジウム」です。私は神奈川大学国際交流の責任者として、馬先生のコーディネートのもとで参加いたしました。

本シンポジウムは、遼寧大学の学術ホールで行われ、「歴史・文学・経済」のセッションが設けられ、本学か

ら私を含めて七名が参加しました。遼寧大学から二〇名、外国と中国各地の大学および研究機関から五〇名ほどの研究者が参加し、盛大な国際シンポジウムとなりました。かつて、遼寧大学の副学長でもあり、日本研究所の所長でもあった馬先生のご尽力の賜物と思われます。

シンポジウム終了後は、文化視察として世界文化遺産の清王朝の陵園と紫禁城の見学に連れて行ってくださいました。また、アジアといわれる鍾乳洞の洞窟である本溪水洞を船で鑑賞するツアーも興味深い経験でした。当時、尖閣国有化で反日運動も懸念されましたが、瀋陽ではそうした動きは全くなく、我々は、馬先生のきめ細やかなご配慮により、有益かつ快適な中国訪問と国際交流を行うことができました。

一方、馬先生は神奈川大学国際交流推進の特別招聘教授として招かれましたが、神奈川大学アジア研究センターの所員で研究者としても、精力的に活動されておりました。アジア研究センターでは、一つの総合研究と七つの研究プロジェクトが活動しています。先生は「アジアの水に関する総合的研究」と「東アジアにおける東西文明の出会い或いは衝突」の二つの研究プロジェクトに所属されておりました。

「アジアの水研究」では、日本と中国の「水信仰」について研究され、特に日本における中国の治水神である禹王の信仰を中心に、日本各地の記念碑やヒアリング調査などを行っていました。その研究成果は、水プロジェクト研究叢書で「日本における禹王遺跡の特色と中国の治水神大禹信仰」として発表されることになっていました。

本年五月か六月頃と思われますが、馬先生から私の研究室に電話があり、先生の研究室に来てほしいとのこと



でした。何の事だろうと不審に思いながら伺うと、実は、いま癌を患っており、この間一〇キロも痩せたと話されました。日本ではまだ許可されていないが中国では許可され投与できる薬の治療を受けるため、中国に戻り治療に専念するので、研究論文の執筆ができないとのことでした。今まで集めた書棚の研究資料を示され、非常に残念な表情を浮かべておられました。

私は、現在では、癌は治療可能な病気なのであまり深刻には考えておりませんでしたので、それから間もなく亡くなれるとは思いませんでした。中国に戻られてから間もなく、禹王信仰の研究資料は、歴民の院生留学生に譲り、研究に利用してもらうとのメールが送られてきました。今から考えると、研究室はかなりきれいに整理されておりましたので、すでに覚悟を決められていたのかもしれませんが。

もっと、いろいろなお話をしておけばよかったと悔やんでおります。仕方ありません。先生のご冥福をお祈いたします。